

# 太田東西かわら版

おんころころ せんだりまとうぎ そわか

2023. 5

## 「薬が効く体」に 整えながら処方する



写真はいつもお世話になっている<ありがとう歯科医院>の池ノ谷先生に施術している模様です。

昨年大きく体調を崩した私は、当時ありとあらゆる薬を服用しました。しかし、効かない……。薬剤師としての自分に自信を無くしました。

「なぜ期待する効果が得られない？どうして効かない？」  
焦りと不安、絶望の中での必死の自問自答から、その答えに気づきました。

「薬が効く体ではないから、どんな薬を服用しても効かないんだ」と。

「薬が効く体ではない」とは、どんな体なのか？

結論からお話しすると、「**コチコチガチガチの硬い体**」ということです。  
特に「**筋肉と靭帯の柔軟性が極めて低下している**」状態。

太田東西薬局の専門は<血流>ですが、服用した薬は血流に乗って患部に運ばれて効果を発揮します。だから、まずは血流を改善しないとどんな薬を飲んでも治らないし、何をやっても治らない。

その血流を良くするために、お客様には漢方だけではなく様々な手法やアドバイスを今までご提供して来ました。

最近では「月桃カイロ」、妻が行っている温熱刺激療法「テルミー」など。体を温めれば、筋肉が弛緩して血流が良くなり、漢方の効き目も上がる。

それは今でも変わらぬ薬局の治療方針ですが、当時、週3回温泉に通い月桃カイロ・ピワ温灸・コンニャクシップなど体を温めることに努力していた私に、なぜ漢方が効かなかったのか？

温熱や運動・ストレッチだけでは緩まないほど、全身の筋肉がガチガチに硬直していたからです。岩石のような横綱級の“硬さ”だった(-\_-;)・・・

その“頑固”な硬直した体に対しては、どんな薬も“焼け石に水”。  
一晩中、眠れなかったのも、蕁麻疹のかゆみに悩まされたのも、しびれや五十肩で運転もできないくらい日常生活に支障をきたしていたのも・・・  
すべては「**体が硬かった**」から。

生肉を焼いてしばらく放置しておくのと、噛み切れないくらいに乾燥して硬くなりますね。もはや元の柔らかい肉には戻らない・戻せない。  
当時の私の体はそんな感じでした。

でも、硬くなった焼肉と違って、自分はまだ生きている。生身の体。  
「元に戻す何かがあるはず」と、自分の体を観察しながら自問自答を繰り返し、あきらめずに探究していたのがちょうど1年前。

硬直し切った体、最初にどこから柔らかくしていけばいいのか？  
頻脈（脈拍数100前後）の原因、深い呼吸ができずに肩で息をしていた原因。心臓や肺ではなく、**胸郭が異常に硬かった**ことが原因でした。

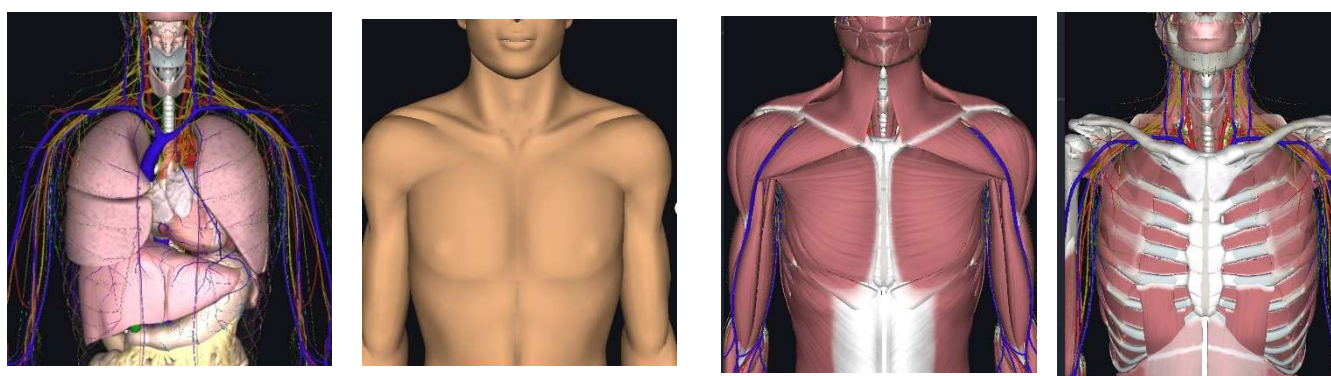
**胸郭～肩甲骨～背骨～骨盤**。その関係性にたどり着きました。

胸郭が柔らかくなれば、呼吸もしやすくなり、健康な体に戻れる。

そう確信して、ありとあらゆる本を読み漁り、ある施術に出会いました。

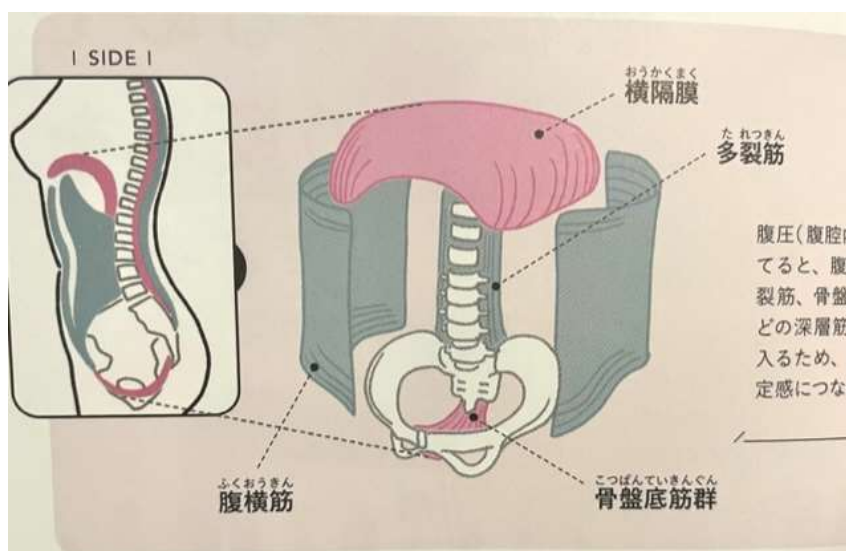
「自分で自分を救う」というその施術家の理念にも共感して、本を片手にセルフケアを続けました。すると、だんだん寝つきが良くなり眠れるようになってきました。睡眠の質が改善していくと、朝の目覚めも良くなる。その施術の効果を体感するとともに、薬の効き目も体感できるようになり健康回復の兆しを掴みました。歓喜の涙とともに。。。😄

薬剤師は薬のプロ。太田東西薬局は血流がテーマ。薬物動態、内臓疾患の知識はあっても、乏しい分野が「筋肉・靭帯・骨」という人体の構造学。



左図の内臓と血流はOK。右図の筋肉・靭帯・骨の視点が無かった。

さらに＜呼吸のメカニズム＞



胸郭の下に位置する＜横隔膜＞。肝臓～腎臓～胃腸など内臓を取り囲む＜骨盤底筋群＞＜腹横筋＞＜多裂筋＞。呼吸は胸郭（あばら骨）だけで営まれているのではなく、これら4つの筋肉との関係がとても深く、筋肉が硬くなると、呼吸が苦しく（低酸素状態に）なるのです。

ということで・・・・・・

太田東西薬局のお客様には、今後私が修得した施術を“無料奉仕”して筋肉～靭帯を緩め、漢方が効きやすい状態に整えて差し上げます！

先の池ノ谷先生には、相談室でも“無料奉仕”施術😊。



歯科医師は、「手指が命」ですからね。



乾燥した固くなった畑に、いきなり種を蒔いても芽は出ないものです。確実に発芽させるためには、種を蒔く前にしっかり「耕す」必要がある。

薬とは水や肥料であって、畑の状態が良くなければ、たくさん水を与えても高価な肥料を与えても発芽しないのと同じく、硬直した体にどんな薬を投与しても、体内で薬が吸収されない（＝薬の効果が得られない）。

薬剤師 35 年の経歴から振り返って思うことは、**「自分の病気や自分の体に当の本人が関心が無い」**患者さんたちが、健康回復できないということ。

真面目に病院に通い、医者から言われた通り検査を受け、薬を飲んでいれば病気は治ると信じて疑わない人たち。肝臓がんと診断されて、肝臓が自分の体のどこにあるのか？も知らないまま手術を受けたり、左右どちらの卵巣を摘出されたのか？も知らないなど。

もっと自分の体に自分が責任を持ってほしい。老いは避けられない、限りある命であることを意識しながら、日々セルフケアに励んでほしいと願います。

**もっと自分の体に関心を持って、もっと自分の体を触ってみましょう！**

「ここに骨が2つあって、この筋肉とつながっているんだ」とか。

ところで太田先生、どうしてそんなに体が硬くなり、長患いされたのですか？というご質問に対するの答えは、、、、、来月号に続きます！＼(^o^)